

授業改善推進プラン 成果と課題

担当教科（ 美術 ） 学年（ 第1学年 ）

目指す授業

- 基礎的・基本的な知識と技術や多様な表現の美しさを理解して、豊かに発想し創造する授業。
- 感じたことを言語化し、表現することができる授業。
- 完成までの行程を見通し、制作過程そのものを自分で工夫修正する授業。



授業・アンケート等の課題分析

- どの項目も、17名中14名以上が当てはまるに答えているが、特に授業の目標や流れを理解し、授業の終わりに振り返りを行っていて、全員が積極的に授業に参加し、学ぶ楽しさを感じていると答えている。
- 感染症に配慮し話し合い活動を減らしているため、自分の考えを発表したり他者の考えを聞いたりする場数が少なく感じている生徒が2名であった。



成果と課題

- 1年間を通して、授業の流れを理解し定着させることができた。
- よりよい表現をしたいと思う生徒が多く、素直に良い点を伝える生徒がいるので、その良さを授業の流れに取り込み、さらによりよい表現や丁寧に制作する楽しさを体得できるように指導していく。
- 進度計画表に、授業の振り返りをしっかり記入する生徒が多くなり、表現力が身に付いてきている。さらに、次の授業で自分は何をするか自分自身で見通しを持って授業に参加する力を育てる。
- 2年に進級したら、タブレットを活用した参考作品の紹介や鑑賞・制作をさらに増やし、生徒自身のよりよい表現活動につながるように指導していく。

授業改善推進プラン 成果と課題

担当教科（ 美術 ） 学年（ 第2学年 ）

目指す授業

- 基礎的・基本的な知識と技術や多様な表現の美しさを理解して、豊かに発想し創造する授業。
- 感じたことを言語化し、表現することができる授業。
- 完成までの行程を見通し、制作過程そのものを自分で工夫修正する授業。



授業・アンケート等の課題分析

- どの項目も、21名中18人以上が当てはまるに答えているが、中でも授業の目標や流れを理解して授業の終わりに振り返りを行い、積極的に授業に参加していると答えた生徒が特に多かった。
- 授業者としては、感染症に配慮し自分の考えを発表したり他者の考えを聞いたりする場面を少なくしているが、授業での振り返りや作品のキャプションでの表現を毎回実施しているためか、生徒自身は考えを発表できていると答えている生徒が多かった。



成果と課題

- 授業の目標や流れを理解し、積極的に取り組んでいる。また、毎時間授業終わりに自分の取り組みについての振り返りを表現する力が身に付いていて、自分の考えを発表している。今後は、振り返り時にどこまで進めたいかだけでなく、次の時間には何をしたらよいか何を工夫できるかを考える力を育成したい。
- タブレットを活用し広範囲にわたる参考作品を見て、自分の作品制作に生かす力が身に付いた。
- タブレットを使った、発想や意見交換を取り入れ持続可能な美術の授業ができるようにしていく。
- 様々な参考作品を紹介し、美しさを追求する能力（丁寧に制作する、発想の大切さ、制作の手順や方法を考え工夫するなど）を育てていく。

授業改善推進プラン 成果と課題

担当教科（ 美術 ） 学年（ 第3学年 ）

目指す授業

- 基礎的・基本的な知識と技術や多様な表現の美しさを理解して、豊かに発想し創造する授業。
- 感じたことを言語化し、表現することができる授業。
- 完成までの行程を見通し、制作過程そのものを自分で工夫修正することができる授業。



授業・アンケート等の課題分析

- 授業に集中して意欲的に取り組んでいる生徒が多い。
- 21名中19名の生徒が学ぶ楽しさを感じ板書や資料がわかりやすいと答えている。
- 自分の考えや書いたり発表したりする機会が少ないと答えた生徒が、7名であった。



成果と課題

- ・2年生の中盤から日本美術や伝統的な表現の基礎的・基本的な知識と技術と美しさを理解することができ、学んだことを表現に活用する力が育った。
- ・夏季休業中の各ポスターコンクールに希望して参加した生徒が、昨年度よりも増え入賞者も増えた。
- ・表現したいことを伝える活動（発表、キャプション、進度計画表振り返りなど）の大切さを理解し、作品の表現意図や自分の考えを伝える能力を伸ばすことができたが、それを自分の考えを表現する場と捉えていない生徒が7名いた。自分の考えや意見を発表する場は、話し合い活動だけではないことを教科指導の中で伝えていく。
- ・時数を見通して制作する力を付けさせ、作品を時間内に完成させるように工夫するよう、細やかに指導することが必要である。